

ference are not yet finalized, there are plans for publishing a Proceedings Volume. It seems unlikely financial assistance will be available from the Conference organizers, so start saving your frequent-flyer credits now. While papers on all aspects of larval biology will be welcome, papers on larval behaviour and the use of larvae in assessing rela-

tionships are particularly encouraged. For more information of the Conference, contact the Chair, Prof Supap Monkolprasit, Faculty of Fisheries, Kasetsart University, Chatuchak, Bangkok 10903, Thailand.

(Jeffrey M. Leis)

会 記・Proceedings

1991 年度第 3 回役員会

1991 年 9 月 9 日 (月), 於東京水産大学資源育成学科会議室

出席者: 落合, 上野, 谷内, 新井, 富永, 松浦, 多紀, 宮, 佐野, 丸山, 藤田

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項. 編集: 38 卷 2 号の発行を準備中. 手持ち原稿 66 篇. 庶務: 長良川河口堰建設に反対する会の機関誌に同会からの依頼により建設省に出した要望書の主旨に沿ったコメントを載せた. フランクフルト・ブックフェアに魚類学雑誌の宣伝を出す. 来年度の年会会場 (東京水産大学) の借用手続きを済ませた.
3. 日本魚類学会からの日本学術会議水産学研究連絡委員会委員候補者として谷内透氏 (東京大学農学部) を推薦することに決定した.
4. 編集にかかる人件費の増額の要望が編集委員長から出されたが, 今年度は若干の予算超過は認めるができるだけ予算額に納めるように努力し, 来年度の予算案作成時に増額を検討することに決定した.
5. 1992 年度の秋季シンポジウムは水産大学校で引き受けける了解が得られ, 竹下貢二教授 (水産大学校増殖学科) を責任者として実施されることが決まった. テーマは未定.
6. 1988 年度から改訂されていない海外購読料の改訂案が谷内会計幹事から出され, 1992 年度から値上げ幅が約 10% の 95 ドル (現行 86 ドル) とすることに決定した.
7. 年会講演発表の講演要旨には図表, 写真を載せることに決定した.
8. 魚類学雑誌第 1 卷 1 号から 37 卷 4 号までの総目録 (author index, new taxon index 等) は約 1600 項目, 120-130 ページと見積られることが富永担当委員から報告され, 魚類学雑誌の supplement として刊行することに決定した.
9. 第 4 回インド・太平洋国際魚類会議 (1993 年 11 月 28 日-12 月 4 日に Bangkok で開催) の first an-

nouncement が来ているので魚類学雑誌に載せることにした.

10. 学協会著作権協議会から同会への登録参加の依頼がきているが, 魚類学会としては登録の方向で検討することになり, その場合著作権を著作者から魚類学会に移すことが必要となるので, 評議員会に諮るべき準備を進めることになった.

11. その他

1991 年度第 4 回役員会

1991 年 10 月 24 日 (木), 於東京水産大学資源育成学科会議室

出席者: 落合, 上野, 本間, 新井, 多紀, 宮, 佐野, 丸山, 藤田,

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項. 会長: 秋季シンポジウムは 10 月 6 日に北里大学水産学部で開かれ, 約 80 名が参加して活発な質疑応答がなされ盛会であった. 編集: 38 卷 2 号は発行. 38 卷 3 号は 11 月 15 日に発行の予定で 16 篇を掲載. 手持ち原稿 56 篇. 1992 年度年会の会告を 38 卷 3 号に掲載する. 学術会議動物研連報告: 第 1 回会議が 10 月 11 日に開かれ, 新しい委員のメンバーが決まった. 平成 5 年度から科学研究費申請の細目が変わる予定。
3. 魚類学雑誌第 1 卷 1 号から 37 卷 4 号までの総目録 (author index 及び new taxon index) の作成はすでに決定されているが, subject index や systematic index を作成する場合, 担当者を決める必要があるので, 今後どうするか検討していくことにした.
4. 学協会著作権協議会への登録のため, 会則および細則の変更を検討することに決定した. また, 学会事務局の地方巡回も今後検討していくこととした.
5. 日本の学術情報等を紹介する日本学術振興会からの魚類学雑誌 (平成 4 年 4 月から 7 年 3 月までの刊行分, 各 2 部) の寄贈依頼を承認した.
6. 1992-1995 年度までの評議員選挙を実施するにあたり, 各地区的評議員数 (国内個人会員 20 名に対し 1 名の割合) を決定した. 各地区的評議員数は北海道

会 記

(4名), 東北(2名), 関東(15名), 中部(9名), 近畿(6名), 中国・四国(5名), 九州・沖縄(5名), 合計46名となる。また, 1994-1995年度の会長選挙も今年度中に実施する。両選挙とも締切日を1992年1月31日とし, 2月の役員会で開票する。

7. その他

日本学術会議だより No. 23 (1991年11月)

第33回総会(第15期・第2回)が10月23-25日に開催された。この総会で決まった第15期活動計画では, 1) 人類の福祉・平和・地球環境の重視, 2) 基礎研究の推進, 3) 学術研究の国際貢献の重視が重点目標とされ, 具体的課題に対応する臨時(特別)委員会が設置されることになった。

第一回マリンバイオテクノロジー研究発表会

開催要領

主催 マリンバイオテクノロジー研究会

協賛 東海大学海洋学部

海洋バイオテクノロジー研究所(予定)

日本魚類学会ほか

日時 平成4年5月30(土)・31日(日)

会場 東海大学海洋学部(清水市)

講演申込締切 平成4年3月31日(火)

①題, ②分類(下記の1-9の番号を記入), ③発表者(講演者に○をして下さい), ④所属, ⑤申込者住所電話番号を明記して下記あてに申し込んで下さい。

一般講演(15分)

1. 大型藻類
2. 微細藻類(一般)
3. 微細藻類(CO₂)
4. 海洋微生物(一般)
5. 海洋微生物(深海)
6. 魚介類
7. 生理活性物質
8. 生理、生化学
9. 支援技術・その他

シンポジウム

日本における海洋バイオ研究の展望

海洋生物の共生関係

海洋バイオ研究における遺伝子工学

付着生物とその防除対策

石油分解

その他

アブストラクト締切 平成4年4月30日

参加費(要旨集含む)

マリンバイオテクノロジー研究会学術会員 4,000円

上記会員外 9,000円

申込先

〒105 東京都港区虎ノ門3-18-6 朝日虎ノ門ビル202

マリンバイオテクノロジー研究会事務局

TEL 03-3434-1083 FAX 03-3434-2789

会員移動(1991.9.1-12.31)

[REDACTED]

[REDACTED]